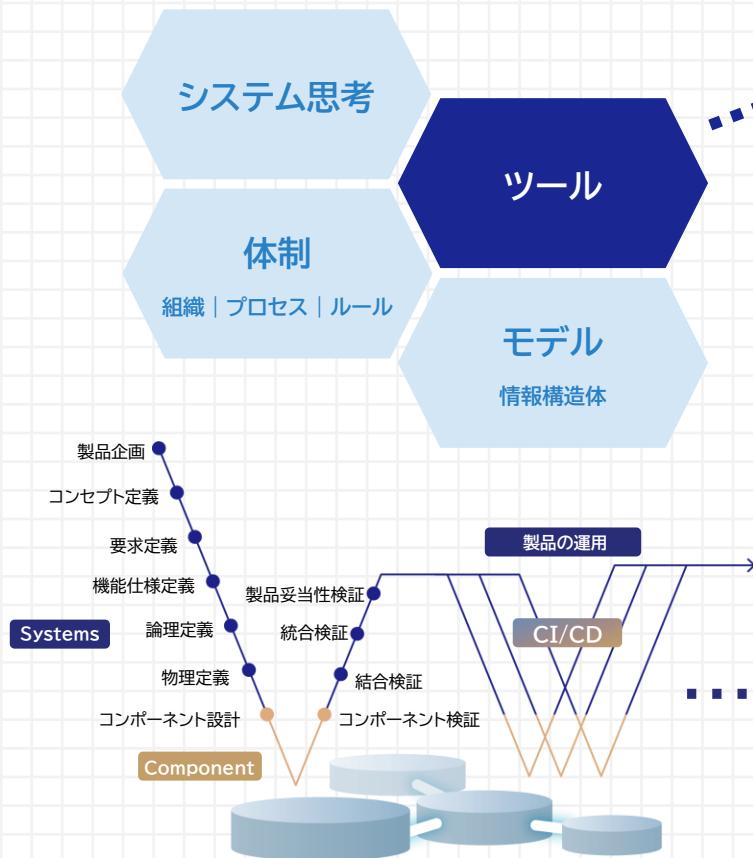


MBSEでプロセス革新

Since 2025

▶ SDM 高機能&超高速 開発

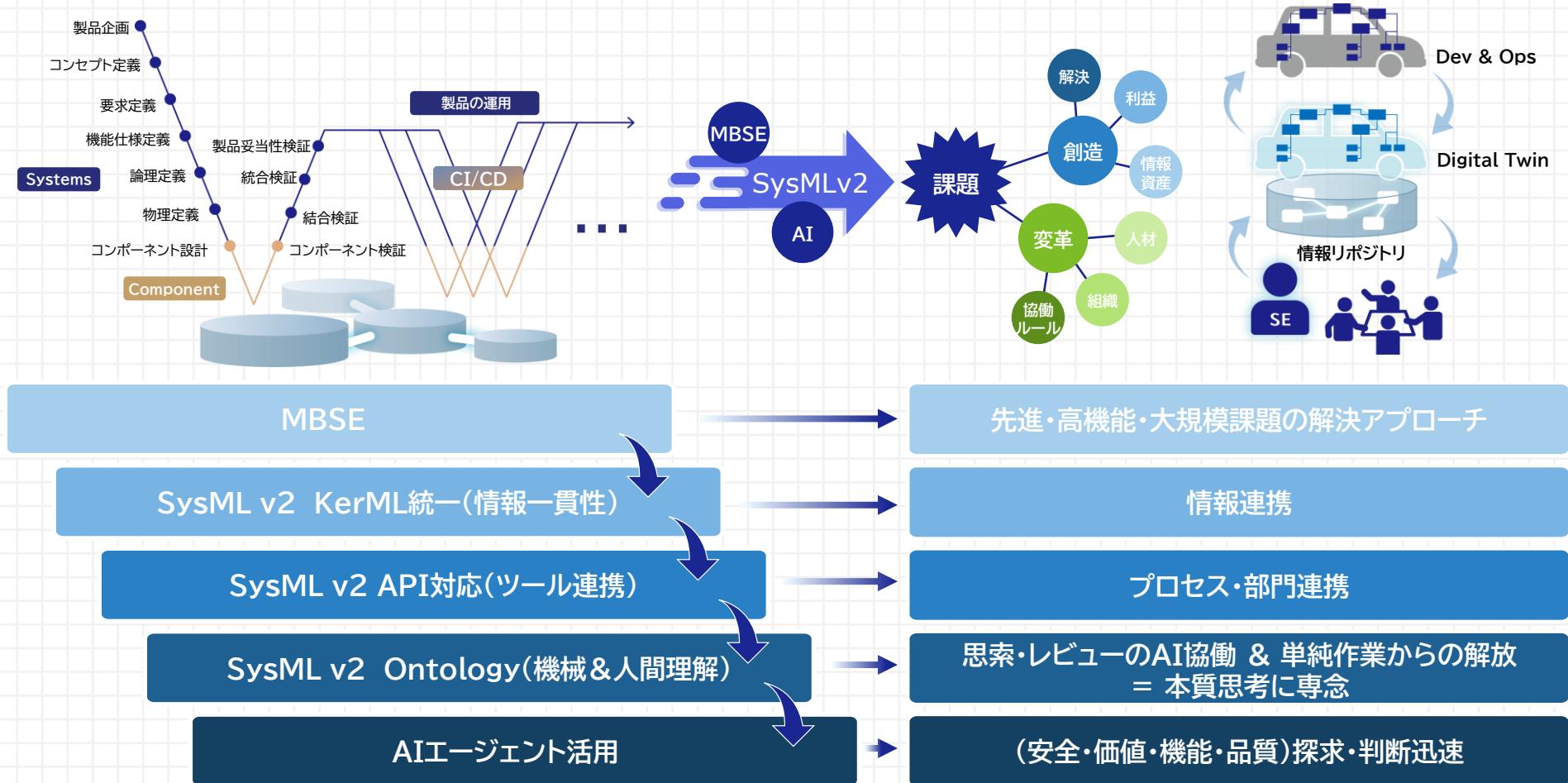


ユーザー要求の多様化、新興勢力の圧倒的短期開発、
サイバーセキュリティ脅威への備え…。
大規模・複雑化する開発を実現するために、
MBSEによる開発プロセスの革新が必要です。
SCSKが、お客様の革新をお手伝いいたします。



- KerMLメタモデルによる情報の一貫性、トレーサビリティを改善し、信頼性・安全性を強化。
- テキスト記述とAI補佐により、開発者は創造に専念。非生産的作業はAIに任せることで、開発効率を大幅に向上。
- API仕様により、ツール・組織・企業の連携を強化し、業務効率を大幅に向上させ、大規模開発を実現。

MBSE + SysML v2 + AI = 創造 + 変革



AIを活用したMBSEのための SysML v2

▶ AI活用を前提としたMBSEで、創造と変革を

- 大規模・複雑な開発は、多大な工数がかかり、管理も非常に難しいです。開発の成功率を向上させるためには、AIの活用が欠かせません。
- AIは、高速に大量の情報を整理し、提案することは得意です。人間は、本来の創造と、意思決定に専念。
- 最初から人とAIが力を発揮できる新たなプロセス・体制を共に設計しましょう。

SysML v2による期待

▶ KerMLによるメタモデル



- 構造・振る舞い・要求などを統一的に記述
- 情報の一貫性を確保
- 要求満足のトレーサビリティを確保
- 安全根拠の証明や確認の負担を軽減
- 信頼性・安全性を向上させるための環境を実現

▶ テキスト記述



- 文法に則った記述により、曖昧さを低減
- 機械・AIが理解可能
- AIによる第三者チェックや、意思決定の補佐
- AIがイノベーションの創発を補佐
- 情報が共有できることにより資産化が可能
- 情報資産の流用開発による開発コストの低減、短期化
- 収益力向上に取り組める環境を実現

▶ API対応



- 他ツールとの情報共有が可能
- 非生産的な変換作業を削減
- プロセス・部門・企業間の情報連携が可能
- 情報理解の円滑化、伝達漏れや誤解による手戻りを防止
- 多企業参画による大規模システム、サプライチェーン開発を効率化
- 大規模・複雑・高度なシステムを成功させる環境を実現

SysML v2は 新時代MBSEプラットフォーム

MBSEプロセス定着のために



AI・組織と協働できる

プロセス連携できる

情報を共有できる

HOW?

【長期視点】自社人材育成のための
【短期解】 社外知見利用

SysML v2プロセス革新
MBSE導入
人材獲得
自社人材成長

協働・情報共有の仕組み化

仕組み化
(協働体制・情報共有)

思考・視点・課題解決力

イノベーティブ思考、抽象化思考…
大局観、ユーザー視点…
課題発見・解決力

ツール利用
ツール連携
情報連携

ツール活用手法
ツール連携手法
情報連携手法

手

経験

頭

プロジェクトの
成功

ルール

組織

資産

情報・成果物の再利用化・資産化

過去トラ、設計情報…
成果物情報、プロセス情報…
市場製品情報

協働体制
組織の変革

協働体制
組織変革
(高速開発体制)

SCSKが お客様のプロセス革新をお手伝い

本件に関するお問い合わせは下記まで

モビリティ事業グループ統括本部 技術部 E-mail : mobility-tech@scsk.jp